



2020年  
12月24日(木)  
1月号  
丸山台中学校教務

## 一人ひとりの自覚と覚悟で 新しい丸山台中を創り、支えよう！

6月の学校再開からようやく半年が経つというところですが、もう2020年は残すところ1週間。今年は時間の経過が今までの感覚と大きく違ってなんだか不思議な感じ。1年生は学校に慣れることで精いっぱいの人もいたでしょうし、2,3年生もペースがつかめず苦労した人も多いのではないのでしょうか。大人の私もそうなので無理はないと思います。

この1年はどうだったかということはさておき、来る2021年は丸山台中学校が統合し2年目となります。新しい気持ちで、新しい学校を皆さんと共に創っていく大切な年です。新生徒会役員の言葉にもありましたが、「統合後で生活の決まりがまだあいまいな所があるように感じる」という実態についてはきちんと改善していき学校としても向かっていきたいと思っています。そして、この学校の主役である生徒の皆さんにも「一人ひとりが自由で楽しいと思える学校」を創るために知恵と力を貸してほしいと思っています。

**内容**

- 一人ひとりの自覚と覚悟で新しい丸山台中を創り、支えよう！
- 「人権」について考える○落ち葉拾いボランティア
- ZOOMで横浜子ども会議
- 冬休み お薦めの本

### 「正義のないところに自由はない。自由のないところに正義はない。」

これは18世紀に活躍したドイツの作家ゾイメが残した言葉です。集団で生活している時には窮屈に感じることもあるかもしれませんが、自分のやりたいことを実現している裏で別の誰かの権利が奪われたり、悲しい思いをしたりすることがあってはならないのです。正しいことを正しいといえる強さ、そして仲間を受け入れる優しさが一人ひとりに求められていると思います。学年は違っても何が正しいのか、どうすることが本当の自由を獲得することなのかをそれぞれのステージで考えながら行動し、新しい丸山台中の可能性をどんどん引き出していきましょう。

さて、間もなく冬休みになります。これまでの年末年始ならば、たくさんのお金を持って買い物に出かけたり、羽目を外してしまったりしてトラブルに巻き込まれてしまうことも多い時期です。いつもほど遠出はできないかもしれませんが、油断せずしっかり自分をコントロールして行動することを心掛けましょう。



SNSの使い方についても心無い言動で傷つく人が出ないようにしたいものです。一度放たれた言葉はもう元には戻りません。また、検温・手洗い・外出時のマスク着用など感染症対策も忘れずに行いましょう。健康が一番の宝です。詳しくは25日に配布される「冬休みを迎えるにあたって」をよく読んでください。ささやかでも大切な人と過ごす時間を楽しむことができますように！そして、1月6日、また元気で会いましょう！

生徒指導部長 角 雪絵

# 「人権」について考える

12月の放送朝会で、「私は本当に悪くない？」という題で生徒会と演劇部の生徒が劇をし、人権について考えるきっかけを皆さんに発信しました。「イライラするから…」「直接言うよりいいよね…」という軽い気持ちで載せた SNS の投稿。それを読んだ人が受ける影響について考えさせられました。自分の行動を後悔する前に、自分のしようとしていることを考え直してみる。そのアクションが大事ですね。

みなさんが作った人権標語を見ると、人権について真剣に考え、どう考え行動していくべきか真剣に考えたことが伝わってきます。人権標語の作品は、日替わりでめくれるように各クラスに掲示されています。各学年の代表作品は、美術部によってポスターとして制作され、今後各学年の廊下に掲示されます。

上原 加奈子

## 人権標語 各学年代表作品

### 本当に強いのはいじめるほうじゃない 流れに逆らって行動を起こせる人

1年5組 秋元 一希さん

流れにのっかっていじめるのは心が弱い証拠。勇気を出して立ち向かえる方が、人として合っているし、間違っていないということ。

### 「しなきゃよかった」じゃ救えない 見つめ直すなら「今」しかない

2年1組 小松 奏美さん

「しなきゃよかった」という後悔じゃ、誰も救うことができないから、言動・行動をする前に、もう一度自分のしようとしていることが正しいことかを見つめ直すことが大切だと思った。

### 人を叩かず、手を叩こう

3年1組 清重 湘瑛さん

ネットなどで人をたたかず（バッシング）、手をたたいて人を称賛した方がみんな幸せになるから。

# 落ち葉拾いボランティア

11月27日、12月1日、9日の3日間で学校の周辺の落ち葉清掃活動をしました。3年生から1年生までたくさんの生徒たちが参加しました。当日、飛び入りで参加する生徒もあり、一生懸命落ち葉を集めてくれました。歩道に落ちているものからU字溝の中に溜まっているものまで袋いっぱい集めました。みんなで活動する地域をみんながより気持ちよく過ごすために頑張っていました。その気持ちがとてもうれしく、温かい気持ちになりました。清掃後の歩道はとてもきれいで清々しい気持ちになりました。2・3



年生の活動には驚かされ、1年生が落ち葉清掃の活動をするときには、ほとんど落ち葉がない状態でした。

1年生には来年の春に向けて、チューリップの球根を植えてもらう活動もしてもらいました。チューリップの球根を植えるときには、来年の春、みんなが気持ちよく新たなスタートを切れるように思いを込めて植えました。地域のために、学校のために、みんなのために行う姿がみられた3日間は、肌寒くも心がほっこりする3日間でした。

健康安全部担当 久家 光喜





# ZOOMで横浜子ども会議

## 丸中ブロック会議

12月17日（木）に丸山台中学校ブロックの小学校、中学校の代表児童・生徒たちで子ども会議を行いました。

今回はコロナ禍ということも考慮し、ZOOMを用いての会議でした。会議のテーマは「だれにとっても居心地のよい学校づくり」です。会議開始直後は、音声が乱れたり、聞こえづらいこともありましたが、話し合いが進むにつれて、それぞれの学校の代表者たちがスムーズに意見交換をしていました。

各学校の取り組みについても、制限が多い中、小学校では6年生が率先して挨拶を行うことで、1年生が挨拶をするようになった、という報告や、他学年間で手紙をやり取りすることで、つながりを大切にする活動をしたという報告などがあり、いろいろな工夫がされていました。また、中学校からは、あい3DAY、評議会の運営などの、丸山台中学校の取り組みについて伝えました。

また、丸山台中学校ブロックの「だれにとっても居心地のよい学校づくり」のキーワードとして、【笑顔・感謝】、【「お互いに」→伝え合う・関わる→関係を深める】、【友情・愛・感謝】、といった言葉が出ました。これらのキーワードを意識して、今後「だれにとっても居心地のよい学校づくり」のための活動に取り組んでいくことを、来年度の子ども会議で伝え合うことを約束して、会議は終了しました。

参加した児童の皆さんの感想では

「最初はドキドキしたけど、こういった形でも、つなげられてよかった。」

「みんなの意見を聞いて良かった。」「中学校に行くのが楽しみになった。」という声が聞かれました。

参加した生徒会役員たちからも

「ZOOMを使った新しい交流でとても不安でしたが、良い話し合いができ、とてもよかったです。」

「小学生の意見等に沢山の工夫があり、すごいと思いました。」

「関わりの少ない小学生と交流することができ、貴重な機会になりとても楽しかったです。」

という感想が出ました。

限られた状況の中で、新しい技術を使いこなして交流する児童・生徒たちに頼もしさを覚えた会議となりました。

生徒会担当 生沼亜紀子



# 冬休み お薦めの本



「新しい日常」という言葉が生まれ外出もままならない日が続き、在宅時間が長くなった皆さんはどのような毎日を過ごしていますか。以前より動画を見る時間が長くなった人も多いのではないのでしょうか。テレビよりも動画を見ている人が増えているとも言われていますが、小説の中にも新しいツールとして動画が使われるようになりました。紹介する本は題名がずばり『ユーチュー部!!』（山田明著・Gakken）。桜花中学校の弱小陸上競技部が練習場所を賭けて強豪サッカー部と陸上対決をすることになり大敗。ちゃんと指導してくれる人もいなかったのだから当然と言えば当然。そんな部がYouTubeの陸上指導の動画に出会って必死に練習。サッカー部に再戦を申し込みます。その結果は……。『ユーチュー部!!』には『駅伝編』『受験編』もあり、動画との上手なつきあい方の一つが描かれていると思います。



次に紹介する『どうぞ愛をお叫びください』（武田綾乃著・新潮社）は動画を見るほうではなくて作る側、つまりユーチューバーの小説です。高校一年の直樹が幼なじみの博也に突然「ユーチューバーやろうぜ」と声をかけられるところから物語は始まります。そこからキャラの違う男子4人でゲーム実況を始めることになるのですが……。人気が出たり、トラブルが起きたり、YouTubeの世界がリアルに描かれているイマドキの青春小説です。20年前は同級生からいきなり「漫才やろう」と言われた男子が主人公の小説『The MANZAI』（あさのあつこ著・ジャイブ）がありましたが時代の流れを感じます。

そして、ちょうどいまシーズン中ということで紹介したいのが「駅伝小説」。

全国的に人気のある箱根駅伝は関東地方の大学駅伝です。出場できるのは前年度の大会の上位10校と10月に行われる予選会での上位10校、そしてもう1チーム、予選会で敗退した大学からタイムの良かった選手で走る“関東学生連合チーム”の21チームです。箱根駅伝の小説では『風が強く吹いている』（三浦しおん著・新潮社）が有名です。駅伝部をつくることから本選出場を目指す10人の学生とそれを取り巻く人間模様が描かれています。登場人物もケガで走れなくなったり、走ることをやめていたり、陸上未経験者だったり様々で読みながら「ありえない」と思いつつ引き込まれていきます。『チーム』（堂場瞬一著・実業之日本社文庫）は本選ではなかなか注目されない“関東学生連合チーム”を描いた小説です。負けたとはいえ何十校もある大学のタイム



の良い選手だけを集めたるのだから速いと思うでしょうが実際はそうはいかないのが駅伝競技。この小説では「敗者の寄せ集め」のチームがなぜ走るのか、何のためにタスキをつなぐのかという悩みや葛藤を抱えながら箱根に立ち向かっていくさまが描かれています。『タスキメシ』（額賀滯著・小学館）は箱根駅伝を走る弟とその兄が主人公の小説。兄弟に起こった高校時代の出来事を中心に物語は進みます。ひざの故障をきっかけに陸上競技から離れようとしている兄とそれにいら立つ弟。才能の有無や努力、逃避などスポーツをするうえで起こりうる問題や感情が兄弟をほんろうします。本を閉じるとき兄弟の関係はどのようになっているのでしょうか。



今回ふたつのテーマで本の紹介をしましたが学校図書館にはまだまだたくさんのお薦めの本があります。皆さんの興味のあるテーマの本もきっとあります。そんな本との出会いを期待して学校図書館に来てみませんか。

学校司書 川崎 美香